薬剤情報

2024-5月　No.12

１．採用薬品情報（2023/5/1　薬事審議会）

1）新規採用薬剤

①オンジェンティス錠 25mg
薬価：957.4 円/錠
【薬効分類】末梢 COMT 阻害剤
【用法・用量】本剤は、レボドパ・カルビドパ又はレボドパ・ベンセラジド塩酸塩と併用する。通常、成人にはオピカポンとして 25mg を 1 日 1 回、レボドパ・カルビドパ又はレボドパ・ベンセラジド塩酸塩の投与前後及び食事の前後 1 時間以上あけて経口投与する。

②クイントバック水性懸濁注射用
薬価：902 円/瓶
【薬効分類】ワクチン・トキソイド混合製剤
【用法・用量】バイアル製剤をシリンジ製剤の全量で溶解し、以下のとおり使用する。
〈初回免疫〉：小児に通常、1 回 0.5mL ずつを 3 回、いずれも 20 日以上の間隔をおいて皮下又は筋肉内に接種する。
〈追加免疫〉：小児に通常、初回免疫後 6 か月以上の間隔をおいて、0.5mL を 1 回皮下又は筋肉内に接種する。

③ゴービック水性懸濁注シリンジ
【薬効分類】ワクチン・トキソイド混合製剤
【用法・用量】
〈初回免疫〉：小児に通常、1 回 0.5mL ずつを 3 回、いずれも 20 日以上の間隔をおいて皮下又は筋肉内に接種する。
〈追加免疫〉：小児に通常、初回免疫後 6 か月以上の間隔をおいて、0.5mL を 1 回皮下又は筋肉内に接種する。

④シルガード 9 水性懸濁筋注シリンジ
薬価：ウイルスワクチン類
【用法用量】9 歳以上の女性に、1 回 0.5mL を合計 3 回、筋肉内に注射する。通常、2 回目は初回接種の 2 ヵ月後、3 回目は 6 ヵ月後に同様の用法で接種する。9 歳以上 15 歳未満の女性は、初回接種から 6～12 ヵ月の間隔を置いた合計 2 回の接種とすることができる。

⑤スミスリンローション
薬価：2,211 円/本
【薬効分類】駆虫剤
【用法用量】通常、1 週間隔で、1 回 1 本（30g）を頸部以下（頸部から足底まで）の皮膚に塗布し、塗布後 12 時間以上経過した後に入浴、シャワー等で洗浄、除去する。

⑥タブネオスカプセル
薬価：1,403.9 円/カプセル
【薬効分類】選択的 C5a 受容体拮抗薬
【用法用量】
通常、成人にはアバコパンとして 1 回 30 mg を 1 日 2 回朝夕食後に経口投与する。

⑦ソマトロピン BS 皮下注 10mg「サンド」シュアパル
薬価：26,724 円/筒
【薬効分類】遺伝子組換え天然型ヒト成長ホルモン製剤
【用法用量】
〈骨端線閉鎖を伴わない成長ホルモン分泌不全性低身長症〉
１週間に体重 kg 当たり、ソマトロピン（遺伝子組換え）として 0.175ｍｇを 6～7 回に分けて皮下に注射する。
〈骨端線閉鎖を伴わないターナー症候群における低身長〉
１週間に体重 kg 当たり、ソマトロピン（遺伝子組換え）として 0.35ｍｇを 6～7 回に分けて皮下に注射する。
〈骨端線閉鎖を伴わない慢性腎不全における低身長〉
１週間に体重 kg 当たり、ソマトロピン（遺伝子組換え）として 0.175ｍｇを 6～7 回に分けて皮下に注射するが、投与開始６カ月後以降増量基準に適合した場合は 0.35ｍｇまで増量することができる。
〈骨端線閉鎖を伴わないプラダーウィリー症候群における低身長〉
1 週間に体重 kg 当たり、ソマトロピン（遺伝子組換え）として 0.245ｍｇを 6～7 回に分けて皮下に注射する。
〈成人成長ホルモン分泌不全症（重症に限る）〉
開始用量として、1 週間に体重 kg 当たり、ソマトロピン（遺伝子組換え）として
0.021ｍｇを 6～7 回に分けて皮下に注射する。患者の臨床症状に応じて 1 週間に体重 kg
当たり 0.084ｍｇを上限として漸増し、１週間に 6～7 回に分けて皮下に注射する。なお、投与量は臨床症状及び血清インスリン様成長因子－１濃度等の検査所見に応じて適宜増減する。
但し、1 日量として 1ｍｇを超えない。
〈骨端線閉鎖を伴わないＳＧＡ性低身長症〉
1 週間に体重 kg 当たり、ソマトロピン（遺伝子組換え）として 0.23ｍｇを 6～7 回に分けて皮下に注射する。なお、効果不十分な場合は 1 週間に体重 kg 当たり 0.47ｍｇまで増量し、6～7 回に分けて皮下に注射する。なお、専用の注入器を用いて注射する。

⑧ダプトマイシン静注用 350mg「ニプロ」
薬価：4,993 円/瓶
【薬効分類】環状リポペプチド系抗生物質製剤
【用法用量】
〈敗血症、感染性心内膜炎〉
通常、成人にはダプトマイシンとして 1 日 1 回 6 mg/kgを 24 時間ごとに 30 分かけて点滴静注又は緩徐に静脈内注射する。
〈深在性皮膚感染症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染〉
通常、成人にはダプトマイシンとして 1 日 1 回 4 mg/kgを 24 時間ごとに 30 分かけて点滴静注又は緩徐に静脈内注射する。

⑨バクニュバンス水性懸濁注シリンジ
【薬効分類】細菌ワクチン類
【用法用量】
〈高齢者又は肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる 18 歳以上の者における肺炎球菌による感染症の予防〉
1 回 0.5mL を筋肉内に注射する。
〈肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる 18 歳未満の者における肺炎球菌による感染症の予防〉
1 回 0.5mL を皮下又は筋肉内に注射する。
〈小児における肺炎球菌による侵襲性感染症の予防〉
初回免疫：通常、1 回 0.5mL ずつを 3 回、いずれも 27 日間以上の間隔で皮下又は筋肉内に注射する。
追加免疫：通常、1 回 0.5mL を 1 回、皮下又は筋肉内に注射する。
ただし、3 回目接種から 60 日間以上の間隔をおく。

⑩ベオーバ錠 50mg
薬価：161.2 円/錠
【薬効分類】選択的 β3 受容体作動薬
【用法用量】通常、成人にはビベグロンとして 50mg を 1 日 1 回食後に経口投与する。

⑪ベンリスタ皮下注オートインジェクター
薬価：24998 円/キット
【薬効分類】完全ヒト型抗 BLyS モノクローナル抗体
【用法用量】通常、成人にはベリムマブ（遺伝子組換え）として、1 回 200mg を 1 週間の間隔で皮下注射する。

⑫エクフィナ錠 50mg
薬価：867.9 円/錠
【薬効分類】パーキンソン病治療剤
【用法用量】本剤は、レボドパ含有製剤と併用する。通常、成人にはサフィナミドとして 50mg を 1 日 1 回経口投与する。なお、症状に応じて 100mg を 1 日 1 回経口投与できる。

⑬パルモディア XR 錠 0.2mg、0.4mg
薬価：0.2mg:60.0 円/錠　0.4mg：111.0 円/錠
【薬効分類】高脂血症治療剤
通常、成人にはペマフィブラートとして 1 回 0.2mg を 1 日 1 回経 口投与する。
ただし、トリグリセライド高値の程度により、1 回 0.4mg を 1 日 1 回まで増量できる

⑭ゾニサミド OD 錠 25mg、50mgTRE「SMPP」
薬価：25mg：321.3 円　50mg：482.0 円
【薬効分類】レボドパ賦活剤
【用法用量】本剤は、レボドパ含有製剤と併用する。
〈パーキンソン病〉
通常、成人にゾニサミドとして、1 日 1 回 25mg を経口投与する。なお、パーキンソン病における症状の日内変動(wearing-off 現象)の改善には、1 日 1 回 50mg を経口投与する。
〈レビー小体型認知症に伴うパーキンソニズム〉
通常、成人にゾニサミドとして、1 日 1 回 25mg を経口投与する。
パーキンソン病通常、成人にゾニサミドとして、1 日 1 回 25mg を経口投与する。
なお、パーキンソン病における症状の日内変動(wearing-off 現象)の改善には、1 日 1 回 50mg を経口投与する。

⑮スキサメトニウム注 40、100「マルイシ」
薬価：40 薬価：190 円/本　100 薬価:336 円/本
【薬効分類】筋弛緩剤
【用法用量】
〈間歇的投与法〉
スキサメトニウム塩化物水和物の脱水物として、1 回 10～60mg を静脈内注射する。
この用量で筋弛緩が得られないときは、筋弛緩が得られるまで適宜増量する。
〈持続点滴用法〉
持続性効果を求める場合は、0.1～0.2%となるように生理食塩液又は 5%ブドウ糖液に溶かし、持続注入する。通常 2.5mg/分ぐらいの速さで注入する。
また、乳幼児及び小児に対する投与法として静脈内注射の場合 1mg/kg を静脈内注射が不可能な場合は 2～3mg/kg を筋肉内注射する。

2）後発品・メーカー変更・規格追加薬剤

・ペグフィルグラスチムＢＳ皮下注 3.6mg（ジーラスタ皮下注 3.6mg からの切り替え）

3）削除品目

・ダプトマイシン静注用 350mg「サワイ」（「ニプロ」採用の為）
・プレベナー13 水性懸濁注（バクニュバンス水性懸濁筋注を採用する為）
・ベタニス錠 25mg、50mg（ベオーバ 50mg 採用の為）
・パルモディア錠 0.1mg（パルモディア XR 錠に変更の為）

２．新規 院外処方薬（院外処方箋でのみ処方可）

・リスモダンカプセル（100mg）
・マスーレッド錠 25mg、75mg、5mg、12.5mg
・カロナール坐剤 400mg
・アポハイドローション 20%（4.32g/本）
・オキシコドン徐放カプセル 5mg
・滅菌精製水（500ml/本）
・フルタイド（50μg）エアゾール 120
・沈降炭酸カルシウム錠 500mg
・ケイツーシロップ 0.2%（2mg/ml）
・ダイフェン配合錠
・ビオスリー配合散
・ゲンタシンクリーム 0.1%（10g/本）
・ディクアノン懸濁用顆粒（1.2g/包）

３．医薬品安全性情報

なし

４．添付文書改訂情報

●グルコンサンＫ錠 5mEq、グルコンサンＫ錠 2.5mEq、グルコンサンＫ細粒 4mEq/g

相互作用相手薬の添付文書との適合を図るため、「禁忌」、「併用禁忌」及び「併用注意」が改訂いたしましたので、お知らせします。（改定部分のみ表記）

【改訂内容】（該当箇所のみ抜粋）

（＿＿＿：変更箇所）

改訂後

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）
（略）
2.7 エプレレノン（高血圧症）、エサキセレノンを投与中の患者［10.1 参照］

10. 相互作用
10.1 併用禁忌（併用しないこと）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
エプレレノン（高血圧症）（セララ） エサキセレノン（ミネブロ） ［2.7 参照］	（略）	（略）

改訂前

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）
（略）
2.7 エプレレノンを投与中の患者［10.1 参照］

10. 相互作用
10.1 併用禁忌（併用しないこと）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
エプレレノン（セララ） ［2.7 参照］	（略）	（略）

改訂後

10.2 併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
エプレレノン（慢性心不全） フィネレノン	血清カリウム値が上昇する可能性があるので、血清カリウム値を定期的に観察するなど十分に注意すること。	カリウム貯留作用が増強するおそれがある。

改訂前

10.2 併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
（新設）		

●エンレスト錠 50mg、100mg、200mg、エンレスト粒状小児用 12、.5ｍｇ、31.25ｍｇ

エンレスト粒状錠小児用 12.5ｍｇ・31.25ｍｇの承認に伴い、添付文書の記載内容を改訂しましたのでお知らせします。（改訂部分のみ表記）

4. 効能又は効果

〈粒状錠小児用 12.5mg・31.25mg〉

慢性心不全

6. 用法及び用量

（参考）

	錠50mg	錠100mg	錠200mg	粒状錠小児用 12.5mg	粒状錠小児用 31.25mg
慢性心不全（成人）	○	○	○	―	―
慢性心不全（小児）	○	○	○	○	○
高血圧症	―	○	○	―	―

○：承認用法・用量あり、―：承認なし

7. 用法及び用量に関連する注意〈慢性心不全〉

7.4 粒状錠小児用を用いて投与する場合は、以下の点に注意すること。

・最低用量は 12.5mg とし、用法及び用量で規定した投与量に最も近い用量となるよう、粒状錠小児用 12.5mg と 31.25mg を組み合わせて投与すること。

・カプセルは容器であることから、カプセルごと投与せず、容器内の粒状錠のみを全量投与すること。

14. 適用上の注意

14.1 薬剤調製時の注意〈粒状錠小児用〉PTP シートから取り出して調剤しないこと。

〈粒状錠小児用〉

14.2.2 以下の使用方法を十分指導すること。

・粒状錠の投与直前に指示された種類及び数のカプセル型容器を PTP シートから取り出すこと。

絶対にカプセル型容器ごと飲ませないこと。

・粒状錠をカプセル型容器から取り出す際は、白色（粒状錠小児用 12.5mg）又は黄色（粒状錠小児用 31.25mg）のキャップを上にして慎重に開封すること。

・粒状錠小児用は、1 錠単位ではなく 1 カプセル単位（粒状錠小児用 12.5mg は 4 錠、粒状錠小児用 31.25mg は 10 錠）で含量を管理していることから、1 回の投与時にカプセル型容器内の粒状錠はすべて投与することとし、1 つのカプセル型容器内の粒状錠を分割して投与しないこと。